

トンネル上に湧水があり高架橋付近にも井戸がありますが、井戸・湧水・表流水の調査地点はどのように選定しているのですか。

- 長野県内のトンネル区間における井戸、湧水、表流水の調査は、環境影響評価書にてお示した予測検討範囲(地下水の水位に影響が生じる可能性のある範囲)及びその周囲を対象に考えています。また、地上部区間においては、高架橋等の工事に伴い地盤を掘削する場所の周囲を対象に考えています。
- 井戸の調査地点選定に先立ち、自治体等と調整の上、対象範囲における個人の井戸を把握し、形式、使用量、標高等を調査させて頂きたいと考えています。
- その結果を踏まえ、井戸の分布状況、地形及び地質、トンネルとの位置関係、自治体からの要請等を考慮して、調査対象とする井戸を選定していきます。
- 湧水や表流水については、環境影響評価書にてお示した地点のみならず、従前より長野県内の100を超える地点で調査を実施してきています。これらの中から事後調査やモニタリングの対象地点を選定するとともに、工事の進捗状況等を踏まえながら、必要により調査地点を増減させることを考えています。
- なお、調査結果につきましては、個人に関する情報など非公開とすべき情報を除き、公表してまいります。

トンネル工事によって、川や沢等の水が枯れた場合、どの様に対処するのでしょうか。

- 山岳部の非常口を含むトンネル工事による水資源への影響は、破碎帯等の周辺及びトンネルが未固結層を通過する区域の一部において、地下水を利用した水資源への影響の可能性がありますが、全体としては小さいと予測しております。
- 工事にあたっては、適切な構造及び工法の採用等の環境保全措置を実施することで影響の低減を図ってまいります。
- 具体的には、事前に先進ボーリング等、最先端の探査技術を用いて地質や地下水の状況を把握したうえで、必要に応じて薬液注入を実施することや、覆工コンクリート、防水シートを早期かつ適切に設置することにより、トンネルへの湧水をできる限り低減します。
- 万が一、減水・渇水などの兆候が認められた場合は、まずは、皆様の生活に支障をきたさぬよう、応急対策を実施してまいります。
- その後も流量観測等を継続し、因果関係を確認のうえで、地域にお住まいの方とお話しながら、水を供給する設備を長期間使用できるものにするなど、必要な恒久対策を実施いたします。

トンネル湧水を壬生沢川へ放流するのでしょうか。

- トンネル工事に伴う排水やトンネル湧水は、必要により発生水量を考慮した処理能力を有する濁水処理設備を設置し、法令に基づく排水基準等を踏まえ、沈澱、濾過等、濁りを低減させるための処理をした上で、公共用水域へ排水することを基本とします。
- トンネル湧水等の壬生沢川への放流は、事業説明会時に地元の皆様からご意見のありました防災面への配慮の要望をふまえて、河川管理者および地元自治体と協議し、措置方法を検討してまいります。
- 具体的な計画がまとまりましたら、工事説明会等でお知らせ致します。

松川インター大鹿線(県道59号線)はどのような道路改良を考えていますか。

- 道路改良は、工事用車両の増加によって一般車両の通行にできるだけ支障をきたさないことを念頭に計画します。
- 改良箇所の選定や、その方法等の決定については、道路管理者である県や、交通管理者である警察などと相談しながら行っていきます。
- 具体的な改良内容は、既存道路の拡幅や待避箇所の設置及びトンネル設置も視野にいれ、検討していきます。
- なお、四徳大橋については、大型車両が走行するとすれ違いが困難な狭い箇所であることは承知しています。しかし、橋前後の道路幅員は待避可能な状況から、信号機や交通誘導員の配置による交通制御により、支障をきたさずに通行することが可能と考えており、橋の架け替えは想定していません。